

入院分娩・母乳育児相談

ともし助産院

助産師 伊藤朋子

〒981-3124

仙台市泉区野村字野村95-6

TEL 022-772-5960

Fax 022-772-5961

メール tomo@tomo-j.jp



2010年

10年目の夏休み ～8月のお産休止予定～

2000年のミレニアムに開業して、この5月で開業10周年を迎えます。助産師仲間や、ママたち、バックアップしてくださる先生方に支えられ、なんとかここまで続けてこれました。ちょっとここで一休みと思ひ、8月1日～9月10日予定のお産を受けないことにしました。リピーターさんや、知り合いからの依頼を断るのは、かなり心苦しいのですが、青葉区で森のおひさま助産院が、頑張ってくれているので、この期間はそちらを紹介させてもらっています。お産は予定日前3週間と予定日後2週間が正常産ですから5週間制限しても、分娩待機が全くフリーになるのは、実質1日だけ。それでも、休むと決めたら、なんだかワクワク…。今から、とっても楽しみです。外来はいつも通りに行います。お産は相変わらず大好きで、妊婦をみると魔女の血が騒ぐ(笑)。外来事務の石川さん初め、右腕・左腕となってくれるスタッフが、すくすく育っています。40代には、40代なりの頑張り方で、細くなが〜く、やっていきたいと思ひます。昨年は、熊谷さん・高橋さんの助産師スタッフ2人が、ここで出産してくれたことが嬉しかった。

助産院が、ママと赤ちゃん、働く助産師や家事・事務スタッフ、後輩学生たち、私の家族、地域のみんなにとって、心地よい場となりますように。これからも、どうぞ見守ってください。

新型インフルエンザ もうかかりました？

マスクも予防接種ワクチンも、「ない。」と言われるほど、ほしくなる…。オイルショックのトイレトーパー買占め騒動のようななあと思ひました。妊婦さんは重症化・・・とか、毎日のように衝撃的な報道。宇宙服のような装備と孤独な隔離室の映像。「コワイぞ〜、怖いぞ〜。」とマスコミに煽られ、心配したママたちからの相談が相次ぎました。

いろんなイベントの中止・延期がありました。「僕と子育て」というテーマで、着々と準備を進めていた11月3日の「いいお産の日」も、感染拡大防止のため中止。「男の子育て風景」の作品展示の予定だったため、事前に作品を用意して下さった皆さんには、本当に申し訳ありませんでした。ちなみに、左上の写真は、40数年前の父と私です。

結局、新型とはいっても強毒性でなかったことが幸いでした。社会心理的なパニック状態も収まってきたかなあと感じます。備えつつも、冷静な対応が必要です。

授乳中のクスリについても、「ほとんどの薬は授乳継続OK・もし授乳休止するなら搾乳を。」という対応が浸透してきたようです。これまでのように「薬を飲むので断乳したら、乳腺炎になった。」「薬を飲んでいる間、3日間だけミルクにしていた。また母乳に戻したいが、母乳の出が悪くなった。赤ちゃんも哺乳瓶が好きみたい。どうしましょう？」なんていう、モッタイナイ相談は、例年よりぐんと少なかったです。よいことです。

インフルエンザに負けない秘策！

1に手洗い。2に手洗い。よく食べ、よく寝、よく笑う。気合いと理性でウイルスをぶっ飛ばす！

これまで当助産院は、面会フリーでしたが、今回のインフル流行を受け、感染予防のため「赤ちゃんへの面会は、同居家族のみ。」と制限をかけました。「助産院って、どんなところかな？」と、見物がてらお見舞いに来るお友達たちで、わいわいガヤガヤ・・・パーティー会場のようになりがちだった入院室でしたが、助産院見学は別な日に来てもらう、赤ちゃんお披露目もおうちに帰ってから・・・ということにしました。すると、それが産婦さん本人には、ことのほか好評で、「おかげで、今回は、静かで、ゆっくり休めました。」との感想を多くいただきました。産後の母児の休養確保のためにも、面会制限は当分続けていこうかなあと思っています。



平和で穏やかな歳となりますように。
すべてのこともたちと、お母さんと家族が、健康に幸せに暮らせませうように。
お産の神様、どうぞ、お守りください。



今年もよろしく
おねがいします。

今度は、サウンド オフ ミュージック に挑戦か！♪



冷たい雨の仙台ゴスペルフェスティバル。

妊婦と赤ん坊連れて、野外コンサートなんて、非常識極まりない感じでしたが、三越前のステージ、突き抜けて楽しいひと時でした。傘をさして聴きにきて下さったみなさん、ありがとうございました。

定例会は、毎週水曜日の午前中ですが、土曜18時からの、夜練チームも始動。育休が明けて仕事に戻っても、まだ歌いたいというママ達が集っています。わたしはもっぱら、そちらに参加しています。お世話係の原田助産師は、夜も昼も頑張っています。

次は、マイクの具合やお天気にも振り回されずに、思いっきり歌いたいっ！ということで、どこかのホールを借りて、発表会をしよう！という、野望がむらむら……。目標、8月！これから、仲間になりたい方も、歓迎。妊婦ゴスペル隊、ますます、元気です。



1月13日 (水) 11時～

紫山の仙台百合学園 [ロザリオのマリア聖堂]にて
妊婦ゴスペル隊 ミニコンサート



1月23日 (土) せんだいメディアテーク

**手をつないで歩むトツキトオカ
赤ちゃん、家族と助産師と**

いとうかすえさんによる、映像作品上映

ベビーコーナーのマークは、どうなっている？

おっばいオタク伊藤は、お出かけすると、授乳室マークをチェックするのを、ひそかな使命としております。母乳育児が広まってきた・・・とは、いうもの、「赤ちゃん=哺乳瓶」という構造はまだまだ色濃く、某アウトレットのように、若い女性が多く集まる場所なのに、ピンクのデカイ哺乳瓶マークで「授乳室」と掲示されているのに出会うと、思いっきりガッカリです。お近くのスーパー・空港・駅・公共施設は、いかがでしょうか？ なにも、そこまで哺乳瓶を嫌わなくても・・・とお思いになるかも知れませんが、普段の何気ない刷り込みは、結構影響力が大きいのです。赤ちゃんは、おっばいとセットが当然。特別な部屋にこもって、授乳するのではなく、街のそこかしこで、おっばいが、ぼろんぼろんと並んで赤ちゃんが好きな時にあむあむしている姿が見られたら、いいよね～と思います。(＊。＊) (人工乳が必要な子もおられます。母乳育児だけがエライわけではありません。大事なのは、もちろん愛。念のため。)



男性用トイレや車いす用トイレの中にもベビーバットが設置されるようになってきましたね。パパがおむつ交換している間に、ママがさ～とお買いもの・・・なんてことも、よくあること。その方が、お店の売上も伸びそう。

秘密オタク調査員伊藤は、ベビーコーナーのマークが、哺乳瓶でなく、赤ちゃんマークだったら、「ヨシ！ここは合格♥」と心の中で褒めてあげているのだ。

企業や自治体の母乳育児支援度数を、みなさんも一緒にチェックしてみましょう。結構、気がついていないだけで、悪気ないことが多いのです。もし、役所の授乳コーナーが哺乳瓶マークだったら、「この町は母乳育児を推奨していますか？」とオセッコイ提言してあげるのも、よいかもしれません。



ちょっと遠出を・・・

スタッフ助産師たちに、留守をまかせて遠出ができるようになってきました。日本助産師会の助産師部会の委員をさせていただくことになり、数か月おきに会議・研修と出歩いています。5月には、奈良で遷都くんとパチリ。神奈川県では、助産師会支部立の助産院がオープンと聞き早速、見学へ。素敵な助産院でした。いろんなやり方が、あるのだなあと学びました。

「いいよ、行っておいで。」と中村副院長に送られ、助産院を離れるのは、嬉しいようなさみしいような、複雑なキモチです。

「昭和の助産師の仕事」の講演を聴きに、ママ達と赤ちゃんと一緒に東京へいったりもしました。10月には、熊手麻紀子さんや八幡悦子助産師とともに、作並温泉で「癒しの助産塾」を開きました。全国から悩める助産師が集結しました。

産婦人科の閉鎖が相次いで、助産師へ世間の期待が高まっていると、感じます。妊婦たらい回し事件を受け、宮城県では産科救急コーディネーター制度が始まりました。助産院も含めた形での運用開始が嬉しいです。産科医療は崩壊しつつあるとも、すでに崩壊しているとも、言われますが、私たちは常に模索しています。お母さんも赤ちゃんも、医療者も幸せになれる産科医療の在り方が、どこかにはあるはず・・・と探し続けています。

